

## Effects of Breastfeeding on Stress Measured by Saliva Cortisol Level and Perceived Stress

水畑, 喜代子

<https://hdl.handle.net/2324/4474994>

---

出版情報 : Kyushu University, 2020, 博士 (看護学), 課程博士  
バージョン :  
権利関係 :

氏 名： 水畑 喜代子

論 文 名 : Effects of Breastfeeding on Stress Measured by Saliva Cortisol Level and Perceived Stress

(ストレスに対する母乳育児の効果  
－唾液中コルチゾール値と知覚ストレスの測定－)

区 分： 甲

論 文 内 容 の 要 旨

産後うつ症状とストレスに対する母乳育児の効果を検討する事を目的として、母子1か月健診または産後クラスで母親79名を対象に、無記名自記式質問紙調査を行った。調査項目は、基本属性、エジンバラ産後うつ病質問票 (EPDS)、知覚ストレス (PSS-10)、母乳育児セルフエフィカシー尺度 (BSES)、栄養法、1日の授乳状況、授乳に関する困難状況について情報収集した。同時に、直接授乳の前・後に唾液1.5 mlを流涎法で採取し、-80°Cで冷凍保存した。倫理審査委員会の承認を得て、対象者に研究の目的や方法などを説明し、文書で同意を得た。直接授乳時間 (吸啜時間) は平均  $16.5 \pm 7.0$  分で、唾液コルチゾール値の授乳前後の変化量と直接授乳時間とに有意な負の相関がみられた ( $r_s = -0.333$   $p < 0.05$ )。母乳が主体の混合栄養群では、授乳後の唾液中コルチゾール値は有意に低下した (Wilcoxon Signed-Rank Test:  $p < 0.01$ )。PSS-10得点を従属変数とした重回帰分析の結果、母乳栄養の母親は混合栄養の母親に比べ、知覚ストレスが低かった ( $\beta = -0.260$ ,  $p < 0.05$ )。本研究では産後うつ傾向と栄養法との関連はみられなかった。結論として、授乳により唾液コルチゾール値は長く吸啜するほど減少し、母乳育児はストレスを減少させ母乳育児効力感を高めた。